

美術専攻 日本画研究領域

イワクラ コトミ

岩倉 琴美



Birth

紙本着彩、水干絵具、岩絵具、雲肌麻紙

Birth

現代社会において、人はさまざまな役割を背負いながら生きており、その中で本来の「人間としての自分」を見失いがちではないだろうか。

筆者にとって、出身地である伊豆大島はそうした社会から離れ、根源的な自分を取り戻せる特別な場所である。大島には、火山活動によって生まれた手つかずの自然がある。この場所は地球の生命力を象徴する存在であり、噴火によって繰り返される破壊と再生のサイクルは、生命の本質そのものを感じさせる。そのような自然の力に触れることで、筆者は人間としての自分に立ち返ることが出来る。筆者はこの感覚を忘れないために作品を描いている。

修了制作《Birth》では、大島の頂上にある火口を描いた。この火山は、約 30 年の間隔で噴火を繰り返す。ここから全てが焼かれ、全てが生まれる。まさに地球が生きている証であり、私にとってその活動は自然生命の循環を実感させる。

南島に固執して描いた画家として、ゴーギャンと田中一村がいる。彼らはそれぞれタヒチと奄美で、自然と向き合いながら自らの芸術を深化させた。筆者にとっての大島も、単なる風景ではなく、人間としての根源的な感覚を取り戻すための場である。過去の画家たちは文明からの逃避先として南島を選んだように見えるが、筆者は現代社会に生きながら、人間性を取り戻す場所として大島に惹かれている。

筆者は、火山という生命の象徴に包まれた自然の中で「人」としての感覚を取り戻し、絵にその感覚を保存することが、生きていく上でのお守りになると考えている。